

国交省の現場で全国初採用

つり足場「クイックデッキ」が大活躍

工期短縮、安全性確保など

日綜産業

日綜産業（本社・東京都小野大社長）の新製品吊り足場「クイックデッキ」が、山形県鶴岡市内の鋼橋補修工事現場で大活躍している。国土交通省発注工事では全国初の採用という。

東北地方整備局酒田河川国道事務所発注の「鈴地区構造物補修工事（鼠ヶ関川橋／施工マルゴ、組立有賀組）」に100平方メートルが採用、3

日に見学会が開かれた。

鼠ヶ関川橋（橋長90、幅員13メートル）は約50年が経過し、塗装塗替や、コンクリート部の打設が行われている。現在の進捗率は約50%だが、従来の足場組立では2カ月の工期を要し、クイックデッキでは3分の1の20日間で済む。また、昨今の建設現場の課題である技能労働者不足に対しても従来の1分の1に抑えら

れ、大きな効果が期待できる上、コスト削減にもつながっている。作業の安全確保や、機能性および施工性など従来製品をはるかに上回る特性が奏功し、当初計画を大きく上回る好調な出足だ。

マルゴの現場代理人・嶋井寿昭氏は「足元が確保されながら、前に進んでいけるので安全。つりチェーンが少なく、足場がフラットだ」と高く評

価し、有賀組の有賀哲代表取締役も「（足場現場の）時代は常に進化しており、作業員を安心して現場に送り出せる」と笑顔で語る。

国土交通省の出先事務所から問い合わせや、現場視察が行われるなど注目されている。現在、国土交通省のNETIS登録に向け準備中だ。



鈴地区構造物補修工事（鼠ヶ関川橋）の現場上と橋梁メンテで活躍するクイックデッキ